

# 私の視点

siten@asahi.com



## ◆東電カード 省エネ時代に逆行しないか

我が国は、消費者にとつては、カードからの支払いにして、おくと、与えられるポイントを利用して最大で1%分の金額が還元される。一般的なカードの還元率は0.5%だから超破格だ。

ポイントで還元されるものは、百貨店の商品券や航空会社のマイレージなどである。どの家庭でも携帯電話を含めると、この種の料金で毎月数万円以上は支払っているだろう。すべてを東電のカード払いにしておけば、仮に毎月5万円の支払いがあると、1年間で6千円分の商品券がもらえるのだ。6月から住民税が上が

り国民負担は増えるばかりだから、消費者にとつては、何とありがたいカードが登場したものである。夏の省エネ対策は環境問題に通じる国策だ。たくさん人が集まる百貨店は、この夏、店内の温度を1、2度高めに設定するとの報道があった。家庭部門の二酸化炭素排出量は全体の1割強だそうだが、その対策として政府は省エネ家電の普及促進に乗り出すという。こうした官民を挙げた取り組みが進む中、電気を使えば使うほどポイントがたまる仕組みのカードを發行するというのは、違和感がある。

最近ではあちこちの店でクレジットカードを勧められるが、それは店が顧客の囲い込みをしたために行っている。だが東電の営業範囲に住んでいる人は、東電としか契約できない。消費者が選択する余地のない独占公益事業体だから、顧客を囲い込む必要はまったくないのだから不思議だ。

しかも電力はライフラインの一つで、誰でもが契約できて、誰でも電気が使える。ところがクレジットカードは違う。審査があるため、契約を拒否されることもある。電気を使えても、ポイントの恩恵を受けられない人もいるのだ。この点を東電に確認したところ、「カード払いにする

ることによって料金回収費用を削減し、きちんと払ってくれる人にポイントとして還元したい」ということだった。しかし電気を使う人の中には、カードが嫌いな人だっている。

東電が普通の事業会社だったら、クレジットカードを發行するのも事業活動の一環として当然の選択だろうが、東電は独占公益事業体だ。ポイントで特定の顧客に還元できるなら、その分電気料金を下げるべきではないか。

◆ 著書に「クレジットカードの知識」「金貨の日本史」など。

投稿は、〒1104・8011 朝日新聞声・主張面「私の視点」かsiten@asahi.comへ。電子メディアにも収録します。

東京電力が發行した「スイッチカード」という名のカードは、電気料金などの利用額にあわせてポイントが付いてくる。電気はもとより、ガス、電話、携帯電話、新聞、NHK、インターネットといった毎月支払